

粘着と接着の概念に一石を投じた『分子勾配膜』 汎用性の高い独自技術を携え、国際標準化を目指す

事業内容

1979年創業
多機能性フィルムの製造
粘着・接着テープの製造
プラスチックフィルム等の最先端素材の塗工・加工等
工業用ゴム製品の製造・販売

知的財産権と内容

特開2025-64112	無電解メッキ用触媒層形成塗料組成物及びそれを利用した金属メッキ複合物
特開2021-030631	積層フィルム及び該積層フィルムの製造方法
特開2021-002569	金属張積層板および金属張積層板の製造方法
特開2020-062832	金属張積層板の製造方法
特開2019-194279	粘着テープ及び、粘着テープの製造方法

他 特許17件、商標12件

(2025年6月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役会長 濱野 尚吉さん

営業職から独立し 粘着テープのバイオニアへ

当社は、かつて粘着テープの製造会社で営業社員であった濱野会長が、独立して創業。前職の経験を活かして粘着テープやフィルムの製造に乗り出し、積極的に独自技術の開発を行った。創業当初は資金繰りに苦労した日々もあったが、発想力や技術力を武器に、誠実な対応を続けた結果、顧客との強固な信頼関係が築かれ、大手自動車メーカーをはじめ大口の取引が増えていったという。2006年に開発した『分子勾配膜構造』は、分子のグラデーション構造により、両面テープにおける薄さや強粘着力、高耐熱性などを可能とする構造だ。汎用性も高く、自動車の内装や精密機器の固定、スマートフォンの軽量化など様々なものに使用されている。特許も取得した同技術は、業界でも高い評価を受け、3年連続で日本発明大賞(考案功労賞)を受賞したほか、文部科学省主催の科学技術賞、第5回渋沢栄一ベンチャードリム賞などを受賞している。また、近年では人材確保のための取組みにも力を入れており、ワークライフバランスを重視した働きやすい環境づくりを推進することで、今後はより柔軟なチーム体制で効率的な開発を実現していく方針だ。

従来の常識をくつがえす 独自の『分子勾配膜』を開発

特許技術である『分子勾配膜構造』を開発したきつ

けは、濱野会長が従来の両面テープの構造に限界を感じ、顧客ニーズと照らし合わせながら新たな形を模索したことだった。当時は紙を間に挟んで厚みを持たせ、接着力を強める方法が主流だったが、「環境への配慮も踏まえ、紙がなくても粘着力を強める方法はないか？」と試行錯誤し、現在のような「三層構造で中央を硬く、表面を柔らかくすることで層の間の応力を高める」技術にたどり着いた。また、その他にも特許と商標の両方を取得している製品『メークリンゲル』にも注目したい。これは透明度や振動吸収性の高さが優れている粘着テープで、ガラスの衝撃破損を防いだり、画面の視認性を高めたりする目的で幅広い需要がある製品だ。こうした唯一無二の技術開発の裏には、社員たちが一丸となって“先行技術”を目指す姿勢がある。「これからも世界にそのブランド力を広げることを目標に、まっすぐに開発や知財の取得・活用と向き合っていきたい」と濱野会長は語った。

INPITと信頼関係を築き 国際特許も取得

特許を取得したきっかけは、日本政策金融公庫に事業計画を相談した際、INPIT知財総合支援窓口を紹介されたことだった。この縁が、その後の本格的な知財戦略の策定にもつながり、『分子勾配膜構造』のビジネス拡大に向けたINPITの重点支援を受けたり、社内の知財担当者の育成に向けたINPITによる知財セミナーを開催

したりと、現在に至るまで良好な関係が続いている。特許は他社との差別化や優位性を示すことができる権利であり、受賞歴や知名度の向上にも貢献してくれたと感じているようだ。また、『分子勾配膜構造』は既にアメリカや中国における国際特許も取得しており、ゆくゆくは自社の技術を“国際標準化”とすることを目標に、積極的な知財の活用を進めているという。

知財取得・活用における苦悩



知財の取得や活用に関してはINPITの担当者をはじめ、弁理士や中小企業診断士、知財戦略の専門家など様々な出逢いに恵まれてきたという当社。しかし、初めての出願では先行研究との概念の違いから「接着」と「粘着」の区別が曖昧になってしまうなど、対応しきれない部分もあったという。また、書類作成などについては専門家のサポートを受けたが、アカデミックな分野ゆえに相互の説明が難しい部分もあったそうだ。そこで濱野会長は

意思が伝わりやすいよう、自ら出願内容を書き起こして説明することもあった。結果として無事に取得に成功し、その後の出願でも円滑なコミュニケーションが取れるようになったという。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

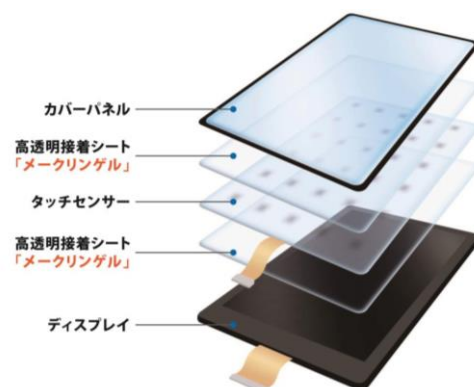


「特許や知財は会社にとってコストではなく、将来的な安心と戦略の根幹になるものだ」と濱野会長は話す。

「アイデアは思わぬところに転がっている。その着眼点に気付くためには、“世界の最先端がどのような方向に向かっているか”をよく見据え、常に必要な情報をキャッチすることが重要だ。学会の情報だけでなく、実際の現場における目線も含めぜひ工夫してほしい」と。また、その上で「貴重な権利だからこそ、守る努力もせねばならない。当社も秘匿すべきところは秘匿するなど、今後も取組みを重ねていきたい」と併せて語った。



代表的な商品である『分子勾配膜両面テープ』は、パソコンの部品固定にも用いられる



『メークリンゲル』の使用例。タブレットやスマホのパネルの間に挟むことができる



知的財産活用のポイント

支援機関との密な連携で適切に課題を解決 多角的な活用が、社員の向上心にも影響

当社は独自技術である『分子勾配膜構造』を中心に、これからも更なる躍進を目指し、戦略として知財の活用に関する取り組みを行っている。INPITからは、知財の取得のみならず、重点支援をはじめ、マーケティングや人材育成、販路の拡大などについてもこまめに相談を続けることで、その都度課題を解決し

ているようだ。また、若手人材の定着や知財担当者の育成に関しても積極的に取り組んでいる。中でも開発者については、モチベーション向上を目的として、発明に関する報奨金制度を設けるなど、ボトムアップの技術開発も意識している。「地域から世界に羽ばたき、社会貢献につなげたい」との濱野会長の想いが唯一無二の技術を生み出し、次世代にもそのエネルギーが受け継がれていく。

COMPANY DATA

取材：2025年6月

企業名：共同技研化学株式会社 所在地：埼玉県所沢市南永井940 電話番号：042-944-5151

URL：<https://www.kgk-tape.co.jp/index.html> 創業：1979年 資本金：5000万円 従業員：80名

